

平成 21 年度第3回小牧市母子保健推進協議会 議事録

【日時】平成 21 年 11 月 27 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】12 名

志水哲也、富樫亮子、高木康司、福井直子、船橋正子、西尾勝子、神戸和敏、
児玉和江、高木健、丹羽三枝子、長谷川京子、杉山千鶴
欠席 2 名：三輪茂美、岡島義弘、

【次第】

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 生と性に関する問題遭遇時の支援体制について

①「平成 21 年度中学生への生と性に関するアンケートの中学生への結果報告の方法」
について 資料 1

②「平成 21 年度保護者への生と性に関するアンケートの保護者への結果報告の方法」
について 資料 1

③「生と性に関するアンケートの結果の学校への結果報告の方法」について 資料 2

④「保健室等に設置するアンケート結果報告の方法」について 資料 2

(2) 「親子健康手帳の内容変更」について 資料 3

(3) 「各現場で、母子保健を取り巻く現状として気になっていること」 資料 4

4 報告

(1) 「発達障害を持つ子どもとその親の支援のあり方部会の検討状況」について
資料 5

5 その他

6 閉会

【議事】

1 議題

(1) 生と性に関する問題遭遇時の支援体制について

①「平成 21 年度中学生への生と性に関するアンケートの中学生への結果報告の方法」
について 資料 1

(委員)

中学生へアンケートの結果を返す時期として、夏休み前というのはポイントとで
あると思います。性体験や妊娠が多いのは、中 3 の夏休みというデータを見たこと

があります。中学3年生の夏休み前の時期に配布するのはよいと思います。クラスの担任の先生に説明してもらうように依頼するとか他によい方法はないでしょうか。どのように配布するかが問題です。

(事務局)

各担任から生徒に向けて、この結果報告書を見ながらアンケートを振り返り、結果報告をしていただくように依頼文を出しています。また、裏面のメッセージについては、生徒に読んでいただく時間を設けていただくように依頼しています。

(委員)

中学三年生の担任は中学2年からほとんどが持ち上がっているのですが、ただアンケートを配るだけでなく、アンケートを振り返りながらアンケート結果を返していると思います。より子どもたちに伝わるよう、先生たちに呼びかける方法を努力していきたいです。

(委員)

説明することは大事だと思います。昨年度は渡す時間はどのような時間だったのですか。

(委員)

ホームルームの時間だと思います。

(委員)

少しでもディスカッションの時間があるとよいと思います。

(委員)

学年部会等でアンケートの返し方を担任に周知し、短い時間であればディスカッションの時間も取れるようにできるかもしれません。

(委員)

内容についてはどうですか。

(委員)

安心相談カードについての掲載がありますが、一年前に配布されたこのカードを、みんなきちんと持っているか疑問です。情報提供として、ホームページなどで検索できるようにしておいて、そのことをここで周知していけるとよいと思います。

(委員)

学校の保健室では、安心相談カードについての周知ポスターの掲示と共に、50部ほど設置しています。

(委員)

児童館も同様です。

(事務局)

ホームページの掲載や保健室や児童館での設置を内容に盛り込んでいきたいと思っています。

(委員)

毎年、中学2年生の時期に配布していくことになるのですか。

(事務局)

アンケートは中学生への情報提供の場として、今後も続けていきたいと思います。2年生になったら、そのアンケートと同時に安心相談カードを配布するという積み上げで対応していきたいと考えています。

(委員)

裏面のメッセージは、よいと思います。

(委員)

こういうメッセージは、待合などに貼っておくと読む人は読んでくれます。私のところでも、こういったプリントが欲しいという人がいましたよ。

(事務局)

安心相談カードについての修正を加え、ホームページへの掲載を準備していきたいと思います。

②「平成21年度保護者への生と性に関するアンケートの保護者への結果報告の方法」 について 資料1

(委員)

生徒たちに配布しても、実際には保護者へ配布物が届かない現状がある。また、懇談で配布するとの意見が出ているが、懇談をやる学校とやらない学校がある。中学3年の夏休み前の3者懇談となると進路のことが中心となり、その中でこの結果報告を伝えていく事は検討が必要であると思われる。

(委員)

3者懇談は、だいたいいつ行うのですか。

(委員)

夏休み前から夏休み中にかけて行うことが多いです。

(委員)

よくある質問の回答を生徒に見える状態で渡すのは、3年生という時期を考えるとどうかと思います。よくある質問の回答を全ての親に渡す必要があるのでしょうか？必要な人のみが見られればいいのであれば、HPへの掲載や保健センターでの手渡しという方法にしてもよいのではないかと思います。

(委員)

全体に返す回答と必要な人のみに渡す回答と2種類用意するのはどうでしょうか。また、回答の内容は信頼性のある機関のHPより発信するのが良いと思います。親が安心相談カードを知らない場合もあるのでHPにも載せるとよいと思います。

(委員)

中3の夏休み前まで待たずに中2の冬の保護者面談で渡すのはどうでしょうか。この時期ならまだ進路の話も具体的になっていないと思います。

(委員)

1人10分くらいの時間しかない保護者面談で内容を説明して渡すのは難しいです。

(委員)

「以前にご協力いただいたアンケートの回答がまとまりましたので、お渡しします。」と言って渡せば問題ないのでしょうか。

(事務局)

こちらもできれば早めに結果をお渡しできればと思いましたが、お渡しする場合先生、学校にも準備をしていただく必要があるため、今年度は会議の都合上3年生にしていだければと思っています。来年度については、学校の予定と会議の時期を調整してリアルタイムにフィードバックできるよう予定しています。

(委員)

アンケート結果抜粋についてはどうでしょうか。中学生の妊娠の80%が中3で内70%が夏休み中であることを踏まえると夏休み前に配布するといいいのではないのでしょうか。

(委員)

男の子の質問にある「胸が痛い」は身体的なものまたは精神的なものですか？

(事務局)

身体的な痛みのことです。

(委員)

結果は親に直接渡したいですね。何か式などがあればいいですね。例えば立志式などがあるといいですね。

(委員)

全ての学校で行っているわけでもないし、趣旨と違ってしまうので難しいと思われれます。

(事務局)

配布時期、方法について各学校で検討していただき、2月の会議で結果をまとめ決定していきたいと思えます。並行して配布資料もA3版とA4版どちらが良いのか現場の教師に確認していただくこととします。

(委員)

アンケート結果抜粋にも参考文献を載せ、その文献(書籍など)を保健室に設置できると良いと思えます。親は問題に直面したときに初めて困ります。そのときのための安心材料とするためにもきちんと渡す必要があるので、3者面談で渡すのが

望ましいと思います。

③「生と性に関するアンケートの結果の学校への結果報告の方法」について 資料2
(委員)

Q10～Q12、Q13～Q15、Q20～Q24は1つのグラフにまとめた方が良く
と思います。

(事務局)

Q10～Q12、Q13～Q15は1つに、Q20～Q24は順位がついているためこ
のままとさせていただきたいと思います。

(事務局)

学校への報告はどのようにすればいいでしょうか。

(委員)

校長会では前年度アンケートの趣旨等をご説明いただいておりますので、今回は
無しで良いと思います。伝えたいことに関しては、内容に合わせて養護教諭部会、
保健主事会等に報告しておきます。

(事務局)

配布時期等は教育委員会と相談し決定することとさせていただきます。

④「保健室等に設置するアンケート結果報告の方法」について 資料2
(委員)

養護教諭部会で設置についての検討をします。部会は12月と3月に開催予定で
すが、12月は議題がいっぱいで難しいため、3月にお願いしたいと考えています。

(事務局)

設置資料の中に自由意見を入れるべきか、現場と相談することとします。

(委員)

保護者が子どもに性についての話をするとき、内容よりもどこまでのことを伝え
ればいいのかというところで困ることが多いため、その部分について養護教諭から
伝えられていただけると良いと思います。

(事務局)

養護教諭への負担が増えることは避けたいので、対応できない場合は保健セン
ターへ回していただければ対応させていただきます。

(2)「親子健康手帳の内容変更」について 資料3

(委員)

親子健康手帳はいつ刷り上がりますか。4月に間に合いますか。

(事務局)

4月には間に合わないので、5月から6月ごろの予定です。

(委員)

別紙1の内容で、生体時計と朝食については関係しているのでしょうか。朝食を食べることによってリセットされるという表現は適切でしょうか。別紙2で「脳のスイッチを入れましょう」とあるように、スイッチを入れるということなら分かります。「朝の光を浴びてリセットし、朝ごはんを食べ、脳にスイッチを入れましょう」といった表現のほうがよいのではないのでしょうか。

(事務局)

事務局で調べて、検討させていただきます。

(委員)

別紙2については、「早寝、早起き、朝ごはん」というキャッチフレーズがあるとよいのではないのでしょうか。

(委員)

そのキャッチフレーズを一番上に入れてはどうですか。字の羅列は見にくいです。

(委員)

やはり、「早寝、早起き、朝ごはん」というキャッチフレーズは使ってもらいたいと思います。

(事務局)

では、一番上にキャッチフレーズを入れていくように構成を考えていくこととします。

(委員)

別紙3についても、見出しがなくインパクトに欠ける。ボリュームがあるほうを上に乗ってきたほうがよいと思います。やはり見出しがあるとよいと思います。見出しをつけて、レイアウトも考えた方がよいと思います。

(事務局)

別紙3についても、レイアウトを考えていきたいと思います。

(3)「各現場で、母子保健を取り巻く現状として気になっていること」 資料4

(委員)

社協に精神保健相談員の経験のある方が入ることにより、精神的に不安定な方への対応が非常にスムーズになりました。

(委員)

家庭がどうなっているのかと思うことが日常的にある。主に関わっているのが中・高生のため、乳幼児期の現状が見えてきません。家庭が子どもを育てる。子どもを育てる機能を持っていない家庭が増えているのであれば、それを支援できるものが必要なのではないのでしょうか。崩壊家庭、片親家庭も増えています。家庭に不足している部分をどのように補ってあげればいいのでしょうか。人間関係を学ぶ場がありません。学校に求める意見もあるが学校は学問を学ぶところである。総合的に考えないといけないと感じています。

(委員)

保健連絡員からファミリーサポートのボランティアになられた方からの話で、ボランティアは個人に踏みこむことができないため、どのようにその家庭を支援してあげればいいのか困ることがあると聞いたことがあります。

(委員)

妊婦健診を受けずに飛び込み出産をされることが多いです。無保険の人に多く見られる傾向があり、救急車で来院されることも多いです。また、高校1年生で妊娠・出産し、出生届けを自分の名前で出たく無いなどと言い、出産後すぐ乳児院に預け自分たちは市外転居し、妊娠・出産を隠して生活しているようなケースもありました。若年の妊・産婦は看護学生が話を聞くと、年齢が近いせいか本音を話してくれたりする場合も多い。このような人達がきちんと子育てできるのか不安になります。

(委員)

乳児を外へ連れ出す時期が早い傾向が見られる。以前は最低でも生後3か月くらいまでは乳児を外へ連れ出すことをしなかったが、最近は生後2か月の子を連れて児童館に来る母親もいます。自分がずっと家に居ることに耐えられず外出している様子で、母親の自覚が薄れているのではないかと少し心配になっています。

(委員)

「早寝・早起き・朝ごはん」はとても大切で、保育園でも啓発しています。メディア漬になっている家庭も多く。療育が必要な児の中には、親子での関わりをもっと増やせば問題が無くなりそうな児も多いと思います。

(委員)

女性の社会進出支援事業を長年続けているが、その事業が育児放棄に繋がることなく無いうように努めていきたいと考えています。

(委員)

新型インフルのおかげで、うがい・手洗いを徹底する生徒が増えたことにより、例年より胃腸かぜ等で体調を崩す生徒が減少しています。どんなに時代が進歩しても基本的な生活習慣に勝るものはないと実感したところです。保健室登校をする生徒は心の寂しい児が多いと感じ、原因が家庭以外の場合でも家庭が重要であると思われれます。

(委員)

家庭で解決した方が良い問題であっても、学校など他に向けてくる傾向が強いと見受けられます。

(委員)

私は低体重児の増加が心配です。統計から母体の痩せすぎと関係があると思われる。今年度は、医療ネグレクトや自宅出産などがありましたが、病院と行政の連携体制ができていたため、家庭に入りやすかった。しかし、関わりが持てない家庭の方が大きな問題を抱えている場合が多いと思われます。

(委員)

子どもにとって安心できる家庭が少なくなっています。メディア漬世代が親になっている時代です家庭の機能が全体的に劣化しており、しつけができない親が増加している。家庭への支援が大切だと感じています。

2 報告

- (1) 「発達障害を持つ子どもとその親の支援のあり方部会の検討状況」について
資料5 (事務局説明)

3 その他

今回は、平成22年2月27日(金)午後1時30分より開催予定です。

4 閉会